

2000万円とした場合、年間2000億円の市場となります。また、介護予防デイサービスにスタッフとして、ひとつの事業所で、2人の鍼灸師・柔道整復師が働くと、2万人以上の雇用が新しく生まれます。これらのことを考えると、10年後の鍼灸師・柔道整復師業界のために、介護予防デイサービスの市場を絶対に鍼灸師・柔道整復師が取らなければなりません。

介護保険で使われる費用は年間6兆7000億円(平成19年度)です。しかし、2006年度の介護報酬の切り下げで、訪問介護事業所は、経営が悪化し、事業所数が減少に転じています。訪問介護事業所は2008年3月末では、前年比562減の2万7020カ所でした(福祉医療機構集計)。2007年6月頃のコムスン事件が影響したこともあります。慢性的な経営難で事業所が閉鎖したり、統廃合したりするケースが顕著になっていると考えられます。ケアプランを作る居宅介護支援でも前年比から453減の3万2041カ所でした。唯一増加している在宅系のサービスは通所介護(デイサービス)だけです。通所介護は、1233増の2万2676カ所でした。ただし、一般的なデイサービスはすでに飽和状態であり、閉鎖する事業所も増えています。

私は、ケアマネジャーとして介護保険に携わって、数多くのデイサービスを見てきました。認知症や車椅子の利用者などに対応するデイ職員の献身さは、ただただ感心するばかりであります。あるデイサービスは、毎日40人近くの利用者さんを送迎車両によって集めて、少ない職員で30人程度を入浴させ、食事やレクリエーションなどを行って夕方自宅まで送り届けます。職員は、入浴介助だけでも目の回るような忙しさです。週1~2回程度利用されている方が多いですが、車で迎えに来て、心やさしい職員の

お世話やデイ仲間との雑談などに満足して通っています。家族もデイサービスに行っている間に自分の自由な時間を持つことができ、しかも利用料は実際にかかった費用の1割と食事代程度で済みます。デイサービスは認知症や重度要介護者の閉じこもり予防と、入浴サービスによる清潔の保持には非常に効果がありました。

では、要支援、要介護1などの軽度要介護者への対応はどうでしょう。彼らは鍼灸院・整骨院に通っている80歳代の膝痛、腰痛の患者と身体機能では、ほとんど同レベルであります。実際、私の経営する介護予防デイサービスの利用者として80歳代の鍼灸院・整骨院に来ている患者に体力測定をしました。その結果、鍼灸院・整骨院に来ている80歳代の半数は、介護保険の申請をすれば要支援程度に認定されることがわかりました。

介護保険制度は全高齢者の7人に1人、450万人が利用しており、そのうち軽度要介護者150万人の4割程度がデイサービスを利用しています。それでは軽度要介護者に対してデイサービスは適切なサービスを行っているといえるのでしょうか? 介護保険は社会保険事業のひとつです。保険とは保険事故に対してサービスを提供するもので、たとえば医療保険制度であれば、



機能訓練風景